

内視鏡的大腸ポリープ切除術のご説明

大腸内視鏡検査では、4人に1人の割合で、ポリープが発見されています。
当クリニックではご本人のご了解のもとに、その場で切除術を行うことが可能です。

簡単に見えるかもしれませんが、あくまでも手術ですので危険はゼロではありません。

切除術後の主な合併症は出血と腸管穿孔（穴が開くこと）です。
出血は80～100件に1件の割合で、穿孔は極めてまれ（当クリニックでは皆無）ですが、合併症が起こった場合には緊急手術が必要になることがあります。

合併症を防ぐために、10日間は飲酒・運動・出張・旅行を控えて下さい。

ポリープが小さい場合は、医師の判断で電気メスを使わずに切除術を行う場合があります。その場合は、合併症のリスクが小さく抑えられますので、生活制限は当日のみになります。
また、ご承諾いただいても、大きさ等で、本日切除できない場合もあります。
予想外のことなので、手術の決断がすぐにはつけられないという方は、本日は検査のみで、後日じっくりと考えてから決めて頂いて結構です。

大腸ポリープ切除術については『大腸読本』にもう少し詳しく記載してあります。
ゆっくりお読みになり、下の欄にご署名下さい。
なお、署名後にご意向が変わった場合は、いつでも変更可能ですので、お申し出下さい。

大腸ポリープ切除手術承諾書

本日の大腸内視鏡検査でポリープが見つかりましたら、

- 10日間の生活制限が出来る**ので、可能であれば本日切除を希望します。
- 1日しか生活制限が出来ませんが**、その範囲で可能であれば本日切除を希望します。
(電気メスを使う切除術が必要になった場合には、後日改めて切除を行うこととします)
- 本日は検査のみで、切除は希望しません。

年 月 日

ご署名 _____ (続柄 _____)

(患者様ご本人が未成年の場合は、保護者がご署名下さい)

※同意書のコピーが必要な方はお申し出下さい。

お茶の水駿河台クリニック